

教養部会准教授 早川 知江

1. 研究活動

<p>論文 「日本語のコト、ノの扱い：名詞群の Head か助動詞化か」</p>	<p>2013. 5</p>	<p>『機能言語学研究』 第7巻 p1-21 日本機能言語学会</p>	<p>日本語のテキストで「こと」や「の」に節が埋め込まれた構造が用いられた場合（例：[[彼は遅刻してくる]]ことがある）の分析法を論じたもの。「ことがある」が階層下降して動詞群（述部）の一部となると考えるか、「ある」が独立して述部を成すかと考えるか、どちらの分析法をとるかによって、述部がどこか、節の過程型が何か違って来るため、分析に大きな影響を与える。こうした例をどう分析すべきか、またその判断基準は何かを、いくつかの文法テストを提案しながら論じた。</p>
<p>論文 Classifying Natural Phenomena through Language: Lexicogrammatical Resources for Constructing Taxonomies in Japanese Biology Textbooks.</p>	<p>2013. 5</p>	<p>In Elizabeth A. Thomson and William S. Armour (eds.) Systemic Functional Perspectives of Japanese: Descriptions and Applications. Sheffield: Equinox.</p>	<p>日本語の学術的文書（生物学の教科書を用いた）において、「分類する」という行為が言語的にどのように行われているかを分析した。「もの」を分類するのは容易だが、「できごと」を分類するには、まずできごとを「モノ化」することが必要だという前提に基づき、日本語は、モノ化を行う文法資源を豊富に備えていること、すなわち、知識を作り伝える役割を十分に果たせる言語であることを示した。</p>
<p>プロシーディング 「日本語の心理過程：「見る」と「見える」」</p>	<p>2013. 1</p>	<p>『Proceedings of JASFL』 Vol. 7: p71-84 日本機能言語学会</p>	<p>日本語に数多く存在する自発動詞（「見える」「聞こえる」）を用いた節を、選択体系機能言語学（Systemic Functional Linguistics）の枠組みから分析法を考えた。これらの節は一見心理過程に見えるが、「Aに（は）Bが見える」という形をとり、通常の「AがBを見る」とは助詞のパターンが異なる。これらの節の(1)過程型は何か(2)節の各要素の participant role は何か(3) Subject は何か、の3課題を中心に、「見える」型節の分析のしかたを考え、特殊な心理過程として扱うことを提案した。</p>
<p>学会発表 「絵本の文と絵：bimodal text における意味の相補性」</p>	<p>2013. 10. 12</p>	<p>日本機能言語学会(JASFL) 第21回秋期大会 (神奈川大学(横浜キャンパス)において)</p>	<p>文(verbal text)と絵(visual text)を組み合わせた bimodal text の代表である絵本を分析対象とし、文と絵が生み出す意味の関係性をとらえる選択システムの構築を目指した。Nikolajeva and Scott (2001) の4分類システムをもとに、さらに細密度の高いシステムとして、Halliday and Matthiessen (2004) の論理-意味の関係システムを融合させることで、絵本を語るのに用いることのできるシステムを提案した。</p>

<p>論文 Nominalization in the Japanese and English Languages Vol. 2</p>	<p>2014. 3</p>	<p>『名古屋芸術大学研究紀要』第 35 巻 p277-295</p>	<p>同じトピックを扱った英語と日本語のテキストを分析し、名詞化 (nominalization) がどの程度用いられているか比較した。名詞化をどの程度用いるのが「自然」かは言語によって異なり、英語で自然に感じられる名詞化表現を日本語で直訳すると、非常に不自然な分りにくい訳になる。そのため、英語教育という観点から見ると、名詞化表現を、なるべく本来的な意味に近い形に戻して訳すことを教える必要がある。本稿は、教育への応用を前提に、英語に比べ日本語では名詞化の利用がどの程度少ないかを調査した。</p>
---	----------------	-------------------------------------	--

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

<p>授業科目 英語 1 (初級)</p>	
<p>◆前期 ◆後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>「初級」「中級」に分けることで、より学生の英語力に合った授業を展開できるよう工夫した。「英語 1 (初級)」では、中高までに学んだ英文法を 1 から復習し、大学レベルの授業への橋渡しを行う事をこころがけた。毎回小テストを行うことで、学生が学習内容をこまめに復習できるよう工夫した。</p>	<p>授業は英語の絵本を講読する形式。毎回、絵本文をプリントにして配布した。プリントには、学生が自分で予習してきた訳を書き込むスペースや、板書事項をメモする部分なども設け、教材としての利便性を図るとともに自主的な学習を促した。</p>
<p>授業科目 英語 2 (初級)</p>	
<p>◆前期 ◆後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>「初級」「中級」に分けることで、より学生の英語力に合った授業を展開できるよう工夫した。「英語 2 (初級)」では、英語の発音や発音記号について学び、単語の発音から文章単位の発音まで幅広く扱った。毎回小テストを行うことで、学生が学習内容をこまめに復習できるよう工夫した。</p>	<p>教科書を用いず、毎回プリントを作成して配布した。プリントには、学生が自分で予習してきた訳を書き込むスペースや、板書事項をメモする部分なども設け、教材としての利便性を図るとともに自主的な学習を促した。</p>
<p>授業科目 英語 3</p>	
<p>◆前期 ◆後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>「『アリス』の英語とことば遊び」という副題のもと、言語芸術としての「ことば遊び」を取り上げた。学期前半は教員がさまざまなことば遊びを紹介し、後半は、学生自身が英語のことば遊びを見つけて発表するという形式をとり、学生の自発的な学習やプレゼンテーション能力の向上を目指した。</p>	<p>「不思議の国のアリス」「鏡の国のアリス」からことば遊びが使われている部分を抜粋してプリントにし配布した。プリントには、学生が自分で予習してきた訳を書き込むスペースや、板書事項をメモする部分なども設け、教材としての利便性を図るとともに自主的な学習を促した。プリントは毎回回収して採点した。</p>

### 3. 学会等および社会における主な活動

日本機能言語学会 (JASFL)	2000. 4 から現在まで	学会発表・学会誌への投稿
------------------	----------------	--------------